

2012 年 4 月度 建築音響研究会 開催報告

4 月度の研究会は「床衝撃音」をテーマに、大阪市内（キャンパスポート大阪）において開催されました。発表件数は 3 題，参加者は計 21 名でした。

当日午後には、音響学会関西支部主催のフェスティバルホール（施工中）の見学会も開催されたことから、今回は午前中からの開催と致しましたが、桜満開の良い季節の中、大学・研究機関・企業からのご出席があり、活発な質疑討論が行われました。

■ 開催概要

日 時 平成 24 年 4 月 20 日（金）10:30～12:30
場 所 キャンパスポート大阪ルーム A
(大阪市北区梅田 1-2-2-400
大阪駅前第 2 ビル 4 階)
参 加 者 21 名



■ 発表題目および内容概要（テーマ：床衝撃音）

1. 木質材料・制振マットを用いた不織布支持による薄型浮床の床衝撃音低減性能

○村上剛士，田中学（日本建築総合試験所），金泥秀紀（七王工業），
小泉聡（クラレクラフレックス），福島隆司（住商鉄鋼販売）

【概要】本稿では、集合住宅の床仕上げ材として開発された総厚が 5 cm 未満の薄型乾式浮床について床衝撃音低減性能の測定事例を示し考察を加えた。薄型乾式浮床は居住空間を大きくとることができるなどのメリットがあるが、床衝撃音低減性能に寄与する緩衝材や質量の大きい材料を配置する空間が制限されるため、開発の難易度が高く、現時点では同様の製品は少ない。

2. 集合住宅において乾式二重床が床衝撃音遮断性能を低下させる要因と実例

○高倉史洋（泰成電機工業），大脇雅直（熊谷組技研），山下恭弘（信州大学名誉教授）

【概要】集合住宅で現在広く使用されている床仕上げ構造である乾式二重床の床衝撃音低減性能の変化要因を把握するため、実験室及び実際の集合住宅において実験を行った。乾式二重床の仕様（床板の構成，壁際等の納まりなど）による床衝撃音遮断性能の変化，床衝撃音低減性能と耐荷重性能の関係などについて考察を行い，実際の集合住宅において床衝撃音低減性能を考慮した場合の仕様，納まりの事例を示した。

3. Resilient channel や乾式二重床構造が枠組壁工法の床衝撃音遮断性能に与える影響

○平光厚雄（建築研究所），廣田誠一（北総研），田中学（日総試），佐藤洋（産総研）

【概要】Resilient channel や乾式二重床構造は木造である枠組壁工法の建築物に使用されることは多いとはいえない。そのため、この 2 種類の部材が床衝撃音遮断性能に与える影響について実験的検討を行った。Resilient channel については、枠組壁工法の箱型の実験室に直張天井と独立天井の界床を設置し、それぞれの床衝撃音遮断性能と天井面の振動の測定を実施した。乾式二重床構造については、残響室の床開口部に基準床を設置し、

上部面材を変化させた試験体を設置し床衝撃音遮断性能の測定を実施した。その結果、複層天井ボードの直張天井に resilient channel を使用した、あるいは乾式二重床構造をもつ界床は床衝撃音遮断性能が向上することを確認できた。

☆建築音響研究会の別刷(バックナンバー)に関する問合せ先：

担当幹事 (<http://asj-aacom.acoustics.jp/backnumber.html>) までご連絡下さい。